

令和6年9月
第52号

発行責任者
首都圏段戸会
会長
内山田 邦夫
編集者
広報担当
織田 利彦

会長挨拶

首都圏段戸会会長

内山田 邦夫 (高21回)

東京に大学進学する際、「東京は生き馬の目を抜くような所」との言い回しをよく耳にしました。が、実際に東京に来てみたら、スピードに翻弄されることは滅多にありませんでした。それが一転した、と感じたのは1990年代からです。冷戦が終わり、中国が台頭し、国際関係や二国間関係の変化が加速／常態化しました。経済も今まで以上に変化が激しくなり、或いは日本にとってのハードルが高くなりました。産業は重厚長大からIT化、システム化、集積と分散化が濃厚となり、家族・社会・文化も昨日と同じ日々是好日ではなくなりました。インドネシアの格言に「神（新宗教）は海からやって来る」というのがありますが、日本の場合「変化は海からやって来る」。つまり、変化の震源地は海外にあり、それにモロに翻弄されているのが東京人・首都圏人。まさに「生き馬の目を抜くような世界」が相手です。



首都圏段戸会の存在価値は、旧交を温め古き良き時代に思いをいたすこと、だけではありません。今日の変化に対して、様々な世代、様々な分野の人たちが奮闘模索し、或いは知恵を出しているところですが、その現在進行型の体験やスピリッツは大変刺激的で勉強になります。また、現在取り組んでおられる趣味やライフワークのお話にもワクワクさせられます。つまり首都圏段戸会での出会いや交流は、過去と現在（ひいては未来）との双方向です。諸先輩からよく聞かされましたが、「首都圏段戸会はホント面白いよ」と私も実感しますし、その体験をより広い世代に拡張していかねばと考え

ています。

首都圏段戸会の最新の取り組み／企画や参加募集は、会報、HP、Facebookで紹介していますのでここでは割愛します。私は会長職になる前からいくつかのサークルに入っていますが、各界の実力者がおられ、かといってズッコケムードと無縁でもなく、楽しませていただいています。フォーラムも近々に開催の方向で最終調整中です。

本年の特筆すべき取り組みとして、「世話人ガイド」の発行があります。私の経験では、ここまで出来る組織はあまりありません。同ガイドを手掛かりに、世話人の皆さんが自由闊達かつスムーズに世話人活動に入られますよう大いに期待しているところです。

なお、本年、岡高同窓会のHPがリニューアルされ、岡高校歌、二中校歌、応援歌などの歌詞・音声を試聴できるようになったそうです。こちらもご活用ください。

では、首都圏段戸会で引き続き元気に楽しくやっていきましょう。



段戸サークルのお問合せ先

皆さまの参加をお待ちしています！

- “段戸囲碁会”
(幹事：早川 慎吾 高32回) hayakawa@a00.itscom.net
- “段戸音楽会”
(幹事：石川 航己 高58回) koki.ishikawa.49@gmail.com
- “段戸句会”
(幹事：野村 親信 高16回) nomurac@jcom.home.ne.jp
- “段戸山の会”
(幹事：石川 定雄 高30回) s_ishikawa44@b04.itscom.net
- “胃文化交流会”
(幹事：小出 一典 高33回) kazunori.koide72@gmail.com
- “副業推進会”
(幹事：加藤 研一 高30回) katosoke@gmail.com

「首都圏段戸会」は愛知県立岡崎高等学校の首都圏同窓会です。

公式ホームページ

<http://dandokai.o.oo7.jp/>

首都圏段戸会

検索



パソコンやスマートホンが不得意な方も、お子さんやお孫さんに操作を頼んで、一度ホームページを訪ねてみて下さい

第52回首都圏段戸会総会・懇親会のご案内

●日 時 令和6年10月26日(土) 13:00～17:00
(受付12:30～)

●場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)(右地図参照)
千代田区九段下北4-2-25 (TEL 03-3261-9921)
JR市ヶ谷駅から徒歩2分
地下鉄市ヶ谷駅(有楽町線、南北線、都営新宿線)
から徒歩2分



総会、講演会はオンライン配信(Zoom)されます。
当日はカジュアルな服装をおすすめします。

— 総会・懇親会はお早めにお越しください —

受付は世話人が対応しておりますが、担当の方々も会員の皆様同様に講演会や懇親会を楽しみにしております。このような事情をご賢察のうえ、できる限り早めに(13:30頃まで)受付をお済ませいただくと幸いです。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

●講演会 タイトル：変遷するテレビアニメ
講師：諏訪 道彦(高30回)
株式会社アスハPP代表取締役
大阪芸術大学芸術計画学科教授
豊田市WeLOVEとよたスペシャルサポーター



(略歴)

愛知県豊田市出身。大阪大学卒業後、1983年読売テレビ入社。1986年1月TVアニメ「ロボタン」でプロデューサーデビュー。その後「シティーハンター」「YAWARA!」「コボちゃん」「名探偵コナン」「犬夜叉」「ブラック・ジャック」「結界師」「ヤッターマン」などの数々のアニメ作品の企画・プロデュースを担当。読売テレビ放送執行役員待遇編成局アニメーション部エグゼクティブ・プロデューサーを経て、現在は株式会社アスハPPを立ち上げ代表取締役に就任。引き続き新作アニメーションを企画・プロデュース。代表作のひとつ名探偵コナンは全世界40か国で放映され日本を代表するアニメ作品として現在も大ヒット継続中。

●懇親会 総会終了後、ゆったりと談話ができる「着席バイキング形式」で懇親会をご用意しております。オンラインによる参加はございません。なお、会費のお支払いは現金でお願いします。
会費：7,000円

ただし、以下の方には特別割引があります。

若手会員(高62回以降)	5,000円
学生会員(高62回以降の大学、大学院、専門学校等の学生)	2,000円
介助のためのご家族	1,000円
同伴ご家族(中高生)	1,000円
同伴ご家族(小学生以下 簡単なキッズコーナーをご用意します。)	無料

●招聘恩師(予定：敬称略)
仲井 さち(家庭) 内田 年一(体育) 大河原 理英(国語) 小島 洋平(数学)

「天気を変えた 戦国・近世の城」

高59回 岸田 麻未

誕生日が9月20日「空の日」であることや、登山好きの父の影響で山登りをしていたこと、長野県で農業を経験したこと、徐々に天気に関心を深め、気象予報士になりました。現在は久保井朝美の名前で、NHK総合「サタデーウオッチ9」「ニュースウオッチ9（祝日）」、「午後LIVEニュースーン（月曜・金曜）」の気象キャスターをしています。また、全国各地で気象や防災、地球温暖化に関する講演をしており、今年4月には岡崎市内で講演する機会がありました。地元にお城を200以上めぐっています。そして、今年2月に初めての本「城好き気象予報士とめぐる名城37 天気を変えた戦国・近世の城」(PHP研究所)を出版しました。

を通して歴史も好きになりました。もう1つ、私が歴史好きになったのは、岡高の先生のおかげです。ただ暗記して試験で点数を取るだけでなく、歴史のストーリーを大切に深く理解することをご指導いただきました。進学校でありながら、受験勉強だけではなく体育祭、文化祭などの行事や部活動にも全力で取り組み、生徒ひとりひとりの個性を認める。岡高の自由な校風が、今の自分の活動に繋がっていると感じています。同じ環境で3年間を過ごした岡高の同級生とは、大人になっても定期的に会っていて、異なる業界で活躍する姿に良い刺激をもらっています。私が中学生の頃、岡高を勧めてくれた父に感謝です。ちなみに、父も岡高の卒業生(高29回)です。



岡崎城と筆者



著書「天気を変えた戦国・近世の城」

1600年に起こった天下分け目の「関ヶ原の戦い」に、わずか6時間で東軍が勝利できたのは、家康が天気の「サイン」を巧みに生かした可能性がある、と私は考えています。何気ない「サイン」に気づけるかどうかは、変化の激しい現代を生き抜くうえでも大切で、歴史から学べることも多いでしょう。私は「天気」という視点を得てから、お城や歴史に対して、かつては抱いたことがなかった仮説や疑問が浮かんできました。それは、新しい楽しみ方が増え、より深く理解できると分かったということです。お城が筆を執った理由です。

視点が広がることで世界が広がるのは、お城に限ったことではありません。さらに、人によって様々な視点があることを意識すると、他人の気持ちも思いやれることにも繋がるのではないのでしょうか。

「視点が広がれば、人生が豊かになる」大袈裟に思われるかもしれませんが、執筆を通して感じました。お城研究の第一人者である城郭考古学者の千田嘉博先生、気象予報士の大先輩である森田正光さん、森朗さん、イラストレーターさん、デザイナードさん、編集担当者さんなど、多くの方の手をお借りして、本が完成しました。

みなさんに手に取っていただけたら幸いです。ここからは、私がお城好きになった原点といえる、岡崎城の魅力を語らせてください。

お城は天守のほかにも、多くの見どころがあります。写真は、岡崎城の中のお気に入りスポット「持仏堂曲輪(じぶつどうくるわ)」。徳川家康が城主だった頃の特徴が残る場所で、家康が所持していた阿弥陀仏を安置するお堂があったことが名前の由来です。本丸に向かうにはこの曲輪で180度方向転換する必要があります。攻めてきた敵が方向転換しているところを側面攻撃でき、鉄壁の防御を誇ります。大きなお堀「清海堀(せいはいぼり)」と橋と天守を一望できて、フォトスポットとしてもおすすめ。私の後ろにあるのは、家康と竹千代(幼少期の家康)の石像が鎮座する「天下人家康公出世ベンチ」です。2012年にできたので、見覚えがない方は12年以上、岡崎城を訪れていないかもしれません。

2015年には、家康の産湯に使われた水を汲んだ井戸「東照公産湯(とうしようこうぶゆ)」の井戸の水に、直接触れられるようになりました。2015年は大発見もありました！乙川の河川敷を掘ったところ、地中から岡崎城の石垣「菅生川端石垣」が出てきたのです。翌年の発掘調査で、川に沿った石垣は約400mにも及ぶことが分かりました。これまで残存状況が悪いと思われていた石垣が、実は良い状態で河川敷に埋まっていた。

お城はずっと昔に作られたものですが、このように発掘調査や整備によって、変化・進化しています。視点が広がると、

これまでとは違う岡崎城を味わうことができるはず。しばらく岡崎城を訪れていない方も、久しぶりに散策してみたいかがでしょうか？

「三河かたぎ」と「浮草人生」

高19回 近藤 陽一

例えば25年前の50歳の頃、都築正行、村木央明、岡部芳郎（敬称略）らに誘われて、当時メルパルクで開催されていた首都圏段戸会に出席するようになり、三河を感じる楽しみが増えた。高19回は、本会の会長・世話人や社会的に活躍してきた者も多く、誇らしく感じる。自分の人生を振り返ると、大した欲もなくただ水に漂う浮草のようにも思える。だが何故か、細長い根先が湖底の土である「律儀な三河かたぎ」と繋がっている気がしてならない。

坊主頭になるのが嫌で、自分なりに頑張る、西尾小から附中に入り、何となく父（二中）や姉も通った岡高に進んだ。周りには才能豊かな友も多く、彼らと全力で競っても勝負にはならないと、早々と悟った。「自分より優れた者を素直にリスペクトできる、三河かたぎ」なのか、自分には、八分の努力で、身の丈に合った、ナンバー2か1.5流に甘んじた生き方が合っていると、子供心に感じたのが「浮草人生」の始まりの様気がする。

岡高での担任は1、2年が東原健、3年が鈴木正夫で、気さくな両先生宅には、在学中や卒業後も何度か遊びに伺った。1年時には体育祭の竜神踊りのリーダー

の福山透や、祭りに必要な青竹を手配してくれた大山むつ子、勉強家の木下武司らにいた。当時流行りのスニーカーカブに乗りたかったが、親に危険と反対され、16歳の夏には軽四輪免許を取り、気晴らしにドライブをする、気楽な岡高時代であった。

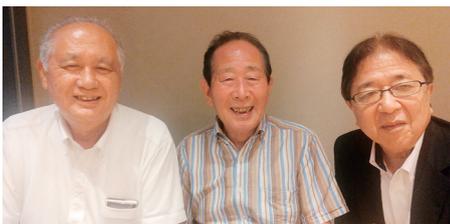
母親以外、父や学校の担任からは一度も「勉強せよ」と言われたことも無く、塾に一度も通わず、参考書を片手に、自分勝手に勉強をしてきた。受験問題の答えが出て、これを将来どう利用したら良いかが解らず、あまり興味が湧かなかった。今池の河合塾近くの下宿部屋は岡高浪人生の溜まり場となり、主の私はパチンコ屋に入り浸りであった。そんな訳で二浪後やむなく、岡高卒では初の、開校間もない北里大学に入り、基礎医学分野に進んだ。3年の春休みには、第一回北里大欧州一周旅行を自ら企画して、以前から二人で海外旅行を計画していた坂田徳雄も誘い、あさま山荘事件終焉の当夜、羽田を34名で出発し27日間、異文化に接して楽しんだ。学園紛争デモも、誘われて2回参加しただけのノンポリ学生であった。

大学院修了後、公害防止の環境庁に行く予定が、オイルショックによる公務員削減の為、急遽、当時は戦争とは無縁で軍事的研究も禁じられていた新設の防衛医大で、最初の男子助手（助教）となった。初代衛生学・横堀教授からは「助手の仕事は年8回の学生実習以外は、自分のしたい研究に没頭しなさい。3年経っても学会で注目されなかつたら、テーマを変えれば良い。」と、万木助教（2代目教授）からは、私が様々な疑問を投げ掛けると「真摯実証。自分で実験して

確認しなさい。」と、両先生には必要な予算も頂き、自分に興味がある課題について、自分なりの努力と苦労はしたが、自由で楽しい21年間の研究生活を送らせて頂いた。専門は、特殊環境衛生・生理学、運動生理学、体力医学だったが、殆ど引用文献に活用されない、自己満足的な論文ばかりであった。

その後、求められるままに「美しくなつて健康を目指す」山野美容芸術短大・美容保健学科教授・副学長、次いで「武士道、ノブレス・オブリージュで有名な」新渡戸文化短大・臨床検査学科教授・副学長を務めた。その間、研究テーマが多様で、生活密着型の実学だった為か「おもしろいTV」など、しばしばTV出演も頼まれた。第31回本会総会講演では「若者に負けていない中高年の体力」の演題で「健康体力のほんの一部である、身体的機能のみは若者に負けるが、その他の身体的および精神的体力要素の行動体力と防衛体力ともに、中高年の方が優れた点が多いこと」を話した。しかし、後期高齢者になり、そんな強気も失せつつあるが、西武文理医学専門学校グループの統括校長として、今も現役で働いている。

小学生の頃「親が一生懸命働いているにも拘わらず、赤貧生活を余儀なくされている家庭」を目の当たりにして、こんな格差社会を是正する、何らかの



高19回同級生と（筆者は左）

仕事に就きたいと思った。最近の専門学校の経済状況を見ると、我々が感じた国民総中流階級の時代とは異なり、昔に戻ったような、大きな経済格差が感じられ、心が痛む。

様々なことに興味を持ちながら深堀もせず、何事にも八分の力でしか挑まぬ、いい加減な私が、明治維新以後の75年間と、昭和23年以後の75年間を見比べると、科学分野の発展には差を認めるものの、昨今のロシア・アメリカ・中国などに蔓延る、国連軽視、自国第一主義の世相を見ると、まるで戦前に逆戻りした様にはかと思えない。全力で日本や世界を変革してきた優秀な同窓生達には申し訳ない気がするが、百年経っても、人の心根は変えられないし変わらないものと、つくづく感じさせられる。

大正デモクラシー、軍国政権、終戦、高度経済成長を体験した、明治生まれの父からは「教科書や新聞・TV・政府の報道は鵜呑みにせず、信ずるな。」と子供頃からよく言われた。この75年間、公害・パブル崩壊・政治・安保・年金・格差社会・憲法改正・原発などの諸問題についても、自分は何を信じたら良いかわからず、積極的な関与もせず、浮草人生を恥しながらも生きてきた。

昔、母に「なぜ戦争に反対しなかったのか。」と問い詰めると「戦争なんて嫌だったけど、知らない間に巻き込まれていたのよ。」とのことであった。目まぐるしく変わる世界情勢の下で、絶妙なバランス感覚で、直接的な戦禍を免れてきた我々、戦争を知らない後期高齢者は、知らぬ間に戦争に巻き込まれぬ様に注意し、後輩にも警鐘を鳴らし続ける責務を感じる。

「限られた地球環境のサステナビリティ、宇宙環境の汚染防止、身体の内環境のホメオスタシス」などに気を配りながら、「浮草人生」をもう少し楽しむつもりでいる。

魅せられて60年 スウェーデンに学んだこと

高7回 杉山 修

1. テトラパックとの出会い

1960年に大学を出て総合商社に就職しました。塩ビに次いでポリエチレンの国産化が始まったばかりで、発足間もない合成樹脂を取り扱う部署に配属になりました。プラスチックの新しい用途を見つけて売り上げを伸ばすことが主な仕事でした。ビール瓶の運搬に使う木函に代えてポリエチレンを成形して作ったコンテナが西独で使われ始めたことを欧州から届いた業界誌で知った先輩が、アサヒビールに採用を働きかけて大きな用途開発に成功しました。

同じ時期に別の業界誌にスウェーデンでガラスの牛乳瓶に代えてポリエチレンをコートした紙容器が使われ始めたという記事が載りました。毎日飲むミルクが、あの分厚いガラス瓶ではなく紙でできた軽い容器で学童に届けられる様子を思い浮かべるとじっとして居られませんでした。一日も早く日本で生産したいという思いに駆られて生産を開始したテトラパック社を訪問したいと上司を説得しました。熱意が通じて1964年に入社4年目の私がスウェーデンに行くこととなりました。発明者であるルーベン・ラウジングさんをルンドに訪ねて日本市場で

の生産販売権の譲渡を話し合いました。廃校になった小学校の校舎を工場にして紙容器の材料と充填機がラウジングさん他数人で生産されていました。数日間に亘って休み時間に合わせて会って粘り強く交渉しましたが、たとえ時間がかかっても自力で世界の市場を制覇したいというラウジングさんの強い意志を変えて貰うことはできませんでした。

アルフレッド・ノーベルが生まれたスウェーデンで強固な起業家精神を学んだ60年前の出来事でした。テトラパック社は今では本社をスイスに移し、包装容器の業界では世界有数の企業に成長し、ECで十指に入る優良企業になってラウジングさんの思いは見事に達成されました。私自身もテトラパック社との親密な取引関係を長く続けることが出来て、この時のチャレンジ精神を大事にして別な分野でも沢山の開発的な仕事に成果を残すことが出来ました。



牛乳用テトラパック四面体紙容器

2. 首都圏段戸会の絆

1999年に仕事を離れてからはボランティアで特別養護老人ホームの経営に関わりながら千葉県から委嘱で福祉サービス第3者評価委員を務めることとなりました。スウェーデン大使を退任された藤井威さんがスウェーデンの高福祉高負担を紹介された本「スウェーデン・スペシャルⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を読んでスウェーデンの福祉施策についての関心が高まりま

した。翌年自身が地方議会の議員に選ばれ、地方自治に関わることになったことから、スウェーデンの地方自治についても現地を歩いて詳しく学びたいと考えていました。そんな時期、2001年の首都圏段戸会に参加した時のことでした。高14回生の水谷鏡子さんから声をかけられました。彼女が教えているフラワーマレンジメントの話聞くうちにスウェーデンで活躍する歌手の Keiko Borjessonさんと彼女が親しいことを知りました。その後、サントリーホールで Keiko Borjessonさんの演奏会が開催された機会に水谷さんの紹介で彼女に会うことになりました。Keikoさんから司法関係の仕事をしていただく主人が地域福祉に詳しく、協力させるのでスウェーデンに勉強に来ませんかとの予想もしていなかった有難いお誘いを頂きました。

者にも知りたいことの全てに真摯に対応されて、必要な情報が隠し隔てなく手渡されることなどを実地に知って、体験して学ぶこと一杯のスウェーデン訪問でした。この時に始まったスウェーデン学習の現地訪問は毎年テーマを変えて10日間程度のペースで続き、スウェーデン社会研究所の会員にもなって研究者を名乗って講演を引き受けたりもしています。Keiko Borjesson さんには東京での公演の帰路の予定に組み込んで頂き、成田空港に近い我が町に迎えての演奏会を企画し、2度に亘って大勢の人たちにスウェーデンに親しんで貰う機会を持つことが出来ました。首都圏段戸会の縁結びの効用に感謝しております。

3. 「国家は家族」ハンソンの言葉

毎年のスウェーデン社会研究のための現地訪問はコロナ禍で途絶え、目下再開を計画中です。研究テーマは福祉から始まり環境、保育、教育と広がりました。人材を育て、国政を支える地方分権の仕組みや幼児を持つ女性の85%が就労者となっている女性の社会進出の実態も興味深いテーマでした。国民の幸せを向上するうえで政治の重要性を小学校から教え、中学生には国政選挙を模して投票実習までする政治教育の位置づけや、自主性や創造力を育み助け合いの気持ちや養育を重視し、立派な保育士を育て、「三つ子の魂」育成の国家戦略は、将に今の日本に取り入れたい思いが募ります。北欧の厳しい自然環境の中で貧しい農業国家でしかなかったスウェーデンが19世紀に入ってからどのような経緯を辿って、世界が注目する国力と国民の高い幸せ度を誇る国に成長して行ったのかを学び、スウェー

デンの歴史への興味も増しています。

劣悪な労働環境と低賃金から逃れようとする労働争議の中から生まれた労働組合の存在理念と社会民主労働党(社民党)の誕生に始まる政権政党の優れた党首が果たした役割は特に興味深いものがあります。なかでも社民党第2代の党首であったハンソンは40歳で首相となり、「国民の家」構想を描いて、国家は国民が平等で助け合う「家」であるべきと唱えて、スウェーデンの福祉国家として発展を導きました。長く続いたハンソンの政権を戦後まもなく45歳のエランデルが引き継ぎました。23年間の長期政権を担当する間、付加価値税を導入し、国民の信頼をベースに税率を25%まで徐々に引き上げて高負担高福祉の国造りを推進しました。国政に優れたリーダーを生み出し、発展を続けるスウェーデンが政治家を消費しないで育て上げる仕組みを築き上げたことも注目されます。国政選挙の投票率はハンソン政権以来85%以上が続き、国民の政治への関心は高く、男女ほぼ同数で構成されている現連立内閣は、対ロシア問題をはじめ多くの難題を抱えながらも協調を保ち、経済は安定成長を維持しています。スウェーデンにはまだまだ学ぶところが尽きません。88歳の老体ですが、体力維持に努めてスウェーデン研究を生涯のタスクとして続けたいと考えております。

第2回WEB懇親会 テーマは「通学」

高34回 井上 由美子

2021年の定期総会が、Zoomを

導入したハイブリッドで開催されたことがきっかけとなり、年1回WEB懇親会が開催されるようになりました。その第2回が2024年2月17日(土)午後3時から行われ、高7回から高58回までの約20名が参加しました。WEB懇親会は、事前の参加申し込みなど必要なく、会員担当から送られてくる一斉メールでの告知を見て、当日Zoomにアクセスするだけの緩い会です。初回はブレイクアウトルームを設定し、約40名を年代別に分け、時間が足りなくなるほどお喋りの花が咲きましたが、今回はグループ分けをせず、みんなでワイワイ会話するスタイルにしました。進行役は私が担当。板谷事務局長の発案で、会話のテーマを「通学」としました。

通学には様々なドラマや懐かしい思い出がありますね。同じ学舎を目指して通ったそれぞれの記憶が、次から次へと掘り起こされ、交通事情や通学路の景色が浮かんでくるようでした。

例えば、最寄り駅まで行くのに自転車を使って足腰が鍛えられた。今では愛知環状線と名前が変わった岡多線は、日中10時30分から14時まで電車がなく、定期テストの日などはなかなか帰れず大変だった。路面電車で通学した。路面電車が走っていたところにバス



懇親会スクリーンショット

が走った。電車にエアコンがない時代は、全開した窓からの風が気持ちよかった。電車が30分に1本なので乗り遅れると大変だった。自転車通学だったが、1日に2度上りがあった大変だった。東岡崎駅からは六所神社を通り抜けて坂を上った。乗車時間70分は睡眠時間だったなど。時空を超えて、それぞれの高校時代にワイプするようなひとときでした。

私は、名鉄本線宇頭駅を利用していましたが、この会のおかげで高15回神谷さんと高41回中鉢さんも、同じ駅を利用していたことがわかりました。時を超えて同じ場所を共有したご縁を感じることができるのは、首都圏段戸会の魅力の一つです。次回は、あなたもぜひ一緒にいかがですか。

段戸サークル活動報告

俳句の会

高16回 野村 親信

二〇〇四年首都圏段戸会のサークル活動の一環として段戸句会を立ち上げることになりました。それ以来約二十名の会員を保ち活発な活動を続けてきました。

活動内容としては、毎奇数月の月末に予め決められた兼題(会で決められた季語)または当季雑詠(その時季の季語が入っていればどんな季語でもよい)の句を五句、首都圏段戸会のホームページから投句してもらいます。そして平田冬か先生(俳句結社「かつらぎ」副主宰、NHK学園俳句講座の講師、十四回生)に選と添削指導をお願いしています。同

時に世話役が全句稿をシャッフルした匿名リストを会員に回付し、会員は入選句を互選しその結果を発表します。俳句は鉛筆一本と紙一枚で簡単にできるし、それでいて生活を豊かにしてくれます。俳句に少しでも興味のある方は世話役の野村親信まで是非ご連絡ください。

平田冬か先生代表作

風鈴の昨日饒舌今日寡黙
いにしへの恋はもどかし歌かるた
太陽の病めるが如く黄沙降る

会員近況

兼六園縄の香高く冬構 市川 毅(高七回生)
遠州灘へとなだれ込む鱗雲 山崎 圭子(高十回生)

春惜しむ癌病棟の窓越しに 本多 悠天(高十三回生)
墨汁の注がれしかに蝸蚪群る 新井 康夫(高十三回生)

若草の萌ゆる国境戦車行く 杉原 洋馬(高十三回生)
新酒利く蛇の目は澄みて藍深し 宮田 望月(高十三回生)

隣席と背中合はせの泥鰌鍋 小森 葆子(高十三回生)
讚美歌の漏れくる扉冬の雨 太田 眞澄(高十四回生)

豊作を確信水を落としけり 中島 彩(高十四回生)
震災の仮設住宅金魚飼ふ 野村 親信(高十六回生)

目の中に飛び込み来たる夕焼かな 鈴木 六花(高十六回生)
海峡の街の夕暮れ河豚の宿 北川 和子(高十六回生)

